

## 平成30年度 第4回 犬山市地域公共交通会議 議事要旨

日時：平成30年12月26日（水）午前10時～

場所：犬山市役所4階401会議室

出席者：18名中15名

### 1 開会

- 【事務局】 開会の挨拶を行う。  
傍聴者（3名参加）について、説明を行う。

### 2 あいさつ

- 【磯部会長】 挨拶を行う。  
【事務局】 犬山市地域公共交通会議の委員数18名に対し、本日は15名が出席されている。過半数をこえているため、本日の会議が成立していることを宣言する。また、代理出席、配布資料について説明を行う。

### 3 議事

#### （1）協議事項

#### ■ 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）について

- 【磯部会長】 議事録の署名者に小川委員と佐守委員を指名する。  
【事務局】 資料1、資料2、資料3を説明する。  
【杉本委員】 この時期は事務局をはじめ、事業評価関連の資料作成に負担をかけているが、国の補助を受けている以上、この作業は必須となるので了承いただきたい。国へ提出する事業評価資料はあくまでも補助対象路線のみの評価であるが、中部運輸局は当初から地域全体の公共交通ネットワークを評価すべきということで、資料3に示されているとおり中部様式を作成いただいている。資料1及び2と資料3との整合が重要となる。その中で2点確認したい。資料3の8ページ目に目標未達成の理由が記載されており60歳代以上の人口減少とあるが、人口の推移と路線（沿線）との相関関係がどうかという点。もう一つは、資料3の6ページ目、運転免許証自主返納者へコミュニティバスの回数券支援を行っているが、その支援の状況を把握されているなら、資料に追加していただきたい。  
【事務局】 人口推移と路線との相関関係までは調べていませんが、必要なデータだと思いますので調査します。また、運転免許証自主返納者へ支援した回数券の利用状況は把握して

いますので、こちらは追加します。

- 【古田委員】 目標が未達成だった場合、その理由を調査し対策を講ずることで目標を達成するという流れが定石だが、今回示された理由では対策を講ずることが難しいと思われる。今回はこれで良いが、利用者や地域住民の声を吸い上げ、運行に反映することで利用者の増加につなげ、是非とも目標を達成して欲しい。
- 【磯部会長】 目標は未達成ではあるものの、若干の未達成が殆どである。これからの目標値をどのように立てていくか、皆さんで議論する必要があると思う。
- 【事務局】 人口減少はあるものの、12月からの再編では、8台8路線による毎日運行と新規エリアへの運行、さらに新規にバス停19箇所を設置したことも加味し、次の目標値は年間9万人をターゲットとし、そのための利用促進施策の推進に注力していきたいと考えています。
- 【磯部会長】 協議事項であるためここで議決を採りたいが、一部、資料の修正が必要である。本日はいただいた内容について私が代表でチェックし、最終提出としたいがそれで良いか。
- 【委員】 異議なし。
- 【磯部会長】 異議なしということで協議が整った。

## (1) 協議事項

### ■ 行楽シーズン・祭礼等におけるコミュニティバス運行について

- 【事務局】 資料4を説明する。
- 【磯部会長】 過去の経験から、予め大幅な遅延や通行規制が予測できるのであれば恒常的にルート変更などを決めておこうということ。気になるのは1つ目の内容で迂回ルートが示されているが、各務原市内を通る予定となっている。各務原市及び公安側への事前了承はどうなっているのか。
- 【事務局】 本日、協議が調い次第、各務原市及び岐阜県警へ説明に行きます。
- 【杉本委員】 運休に関する手続きは忘れずをお願いしたい。また、2つ目と3つ目は日にちも時間帯も決まっているため、予め利用者への周知が図れるが、1つ目の内容については、大幅な遅延が発生した場合となっているが、どのように利用者への周知をするのか。
- 【事務局】 予めバス停に周知文を掲示しますが、昨年度は、運休するバス停へ事前確認に行き、利用者の有無を確認した上で運休としました。
- 【磯部会長】 杉本委員の話は、人が外出する時は予定をたてて行動するが、その日に運休になると予定を変えなければいけないため、予め運休を決めておいた方が利用者は行動し易いのではないかということ。
- 【杉本委員】 実際に運行する事業者の立場ではどうか。

- 【工藤委員】 運行事業者としては、利用者からの問合せ対応も含め、予め運休すると決めておいていただいた方が運行し易い。
- 【松浦委員】 犬山市は観光客も増え、特にゴールデンウィークは必ずと言っていいほど道路が渋滞し動けなくなる。従って、ゴールデンウィークについては事務局が提示しているように、北周りを予め運休にすべきだと考える。
- 【古田委員】 紅葉等と資料には記載があるが、「等」にはどんなことが含まれるのか。
- 【事務局】 桜（花見）の時期を含めています。
- 【古田委員】 桜や紅葉は基本的に土日がメインになる。その時期に祝日が重なると話は別だが、自然のことなので、なかなか読み辛いのではないか。
- 【磯部会長】 災害や事故など道路の状況に応じてルートの変更や運休が生じるのは一年を通して可能性はある。
- 【杉本委員】 ルートの変更や運休が生じた場合は、事後で良いので、我々に報告をお願いしたい。
- 【飯坂委員】 病院の予約などもあるため、運休については計画的に対応することが重要だと考える。最低1週間前にはバス停などへの周知をしていただきたい。
- 【磯部会長】 運休については確定させた方が利用者にとっては分かり易い。本日は、桜や紅葉の時期は自然のことなので、日にちが決められない以上協議内容から外し、ゴールデンウィーク期間中の運休を確定させるという内容に資料4を修正するという内容で議決を採りたい。
- 【委員】 異議なし。
- 【磯部会長】 異議なしということで修正した内容で協議が整った。

## (2) 報告事項

### ■ 平成30年10月までの実績について

- 【事務局】 資料5を説明する。

～委員から特に意見なし～

### ■ 路線図の修正について

- 【事務局】 資料6を説明する。

- 【磯部会長】 こういった修正箇所が見つかると、他に無いか気になる。あれば修正していただきたい。

## ■ 新運行の状況報告について

- 【事務局】 資料7を説明する。
- 【杉本委員】 12月からの新運行の速報値ということで、毎日運行になって利用者が増えているようで良い結果だと思われる。新設バス停について、強弱はあるが乗ってもらっているところもあり、一方でなかなか利用がないところも見受けられる。利用が少ない新設バス停については、改めての地域への周知をお願いしたい。PRの中でナビタイムとの連携とあるが、現在、国ではGTFS化を積極的に進めている。Googleマップを活用したもので、カーナビと匹敵する情報が得られる。利用者が行きたい場所を検索すると、徒歩・自転車・自動車・タクシー・バスなどの移動手段が表示され、それらの中から選択できるという仕組み。事業者様の協力が不可欠だが、そちらも是非ご検討いただきたい。
- 【松浦委員】 GTFS化については当社も取り組んでおり、現在、名古屋空港路線から進めている。他の路線にも適用していく予定なので、今しばらくお待ちいただきたい。
- 【磯部会長】 乗り換え案内について、様々な会社が提供しており、会社ごとにソフトウェアの規格が違うというのが現状であるが、標準的な規格を作れば、その標準規格から必要な情報を入手し、使用できるというのがGTFS化。標準規格の作成は事業者がやるべきなのか、我々地域公共交通会議がやっていくべきか様々な議論がある。
- 【飯坂委員】 新運行の結果を見てビックリしている。予想以上の結果がでていますが、事務局としてどんな感想や分析をしているのか。
- 【事務局】 事前広報やPRのおかげで、コミュニティバスに興味を持っていただけたというのがこの結果に繋がったと思っています。新運行開始前にも電話で問合せが何件もあり、「一度、乗ってみよう」という人が多くなったのではないかと推測しています。
- 【飯坂委員】 新設バス停の利用状況にバラつきが多いが、今回新設したバス停は、全て要望を基に設置したものか。
- 【事務局】 全ての新設バス停に要望があったわけではありませんが、要望されたバス停であっても利用が少ないバス停もあります。改めて、地域へPRをしていきたいと考えています。
- 【磯部会長】 路線の精確な比較はまだしばらくかかるが、新設バス停の利用状況は都度、確認していきたい。また、利用者の声の中で気になるのが、満員で乗れなかったとの声。時間が経って落ち着くのか、これが続くのか。続くのであれば何かしらの対応が必要なので、そこは注意して見ていきたい。

■ 新型車両お披露目会について

【事務局】 資料8を説明する。

【磯部会長】 新聞やマスコミ等で色々取り上げていただいた。今後、この宣伝効果も良い結果につながるのではないかと思う。他に委員の皆さまからご意見は。なければ以上をもって本日予定の議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

【事務局】 磯部会長におかれましては、会議のとりまとめありがとうございました。また委員の皆さま方にはご審議をいただきまして、ありがとうございました。以上で本日の会議を終了いたします。

以上

平成31年1月30日

本書は、平成30年12月26日に開催された犬山市地域公共交通会議の議事要旨に相違ないことを証する。

署名人 小川 健司

署名人 佐守 哲也